

## 中国第一商業街—武漢漢正街

漢口沿江大道の北には長江と平行して「中国天下第一商業街」とも呼ばれる賑やかな漢正街があります。漢正街は「漢派」(＝漢口の)商業文化発祥の地と言われ、530年余りの歴史を有します。

## 漢正街の歴史

長江の最大支流である漢水の源流は陝西省にあり、古来商人は貨物を船に積み漢水を下って、合流地である「漢口」(長江の入り口の意)へ向かいました。こうして、漢正街には人や物が集中していきました。

しかし20世紀初め、漢口港の対外開放後に他国租界ができ鉄道が開通されると、漢口の商業中心地は長江沿いに移り、漢正街の賑わいは鳴りを潜めました。辛亥革命時の戦禍を経て、新中国の成立後に街の改造が行われることになりました。

1979年改革開放が公布されると、漢正街は中国初となる個人経営のスタイルの卸売市場を設立し、80年代には地理的優勢性で東西南北の流通機能を発揮、中国中部最大の商品集散地となりました。当時「対外開放の見本は深圳、対内市場経済の見本は漢正街」ともはやされました。

90年代に入ってから、政府と経営者の合同出資で商品取引ビルが建ち、漢正街の環境と交通が改善されました。80年代には安価な品物の卸売り中心で、農村市場向けイメージだった漢正街は、20余年を経て現在、武漢市民の日常の買い物場所、および華中地域の商品卸しの中心地となっています。また近年、テレビドラマ「漢正街」が全国放送されると更に名声が高まり、武漢市民・他地域住民の商品取引、観光、ショッピングの要地となりました。



## 漢正街の規模

明時代の漢正街は僅か400メートルの通りでしたが、商業の振興と繁栄は市場と街の拡大を進め、清時代に漢正街を主軸とする「漢正街商業区」は縦街32本、横巷64本に広がりました。

現在の漢正街取引市場は、日用品、服飾品、小型電気製品、工芸品、室内装飾品、化粧品、文具類、おもちゃなど10数万種類、十数か所の専門市場に分かれて、2.56平方キロメートルの面積を持ちます。中小規模の個人経営が中心の私営企業が多く、13,000社以上あります。商品は河南、河北、山西、陝西、四川等華中、西南12省市に運ばれていきます。国連購買センターも漢正街で中国国内2店目の出店をしました。

武漢市漢正街市場管理委員会の統計によると、服飾品、紡績類、小物を中心とする漢正街は、1日約20万人の人が訪れ、売上高は4931.5万元に達し、これは、市内最高の武漢プラザデパートの9日分の販売合計額に相当します。2004年以来、毎年の年間売上は200億元を超えたそうです。

## 漢正街の老舗ブランド

漢正街は清時代から現在に至るまで有名な老舗を多く育てました。「葉開泰」漢方薬店は300年の歴史があり、現在は上場企業武漢健民製薬工場となりました。「李記」熱乾麺は現在でも設立当初の店舗所在地で種類豊富な熱乾麺を作り続けています。狭い店舗の前では客たちが胡麻汁を立ち食いする姿が見られます。そのほか、「大興園」(「艷陽天」チェーン店の魚回魚大王調理師)、「謙祥益」(服装)、「汪玉霞」(食品)などの老舗もこの街で生まれた企業です。



## 買い物天国

漢正街は買い物天国と呼ばれています。年間を通して各季節最新デザインの服装と関連商品が種類豊富に安く買え、老若問わず人気です。値引き交渉も大変な面白さとコツがあります。時間さえあれば、欲しい物は必ず見つかるはずですよ。

## 今後の課題

浙江省の義烏市小商品市場は自然条件と歴史は漢正街に遠く及ばないものの、海外での知名度は高く、昨年度の売上も漢正街の3倍にまで成長しました。漢正街「天下第一街」の復活も中部勃発戦略の課題の一つです。投資環境、経営方針などから漢正街の2次振興策が進んでおり、次世代の更なる繁栄が期待されます。